

2012年度 惑星科学フロンティアセミナー 参加報告

黒崎 健二¹, 門屋 辰太郎², 小玉 貴則²

9月10-13日に北海道勇払郡むかわ町の町営穂別キャンプ場にて、「惑星科学フロンティアセミナー2012」が行われました。今回は、東京工業大学の中本泰史氏を招待して、「星・惑星系の形成過程」というテーマで、星間雲の重力収縮から惑星形成までの一連の流れについて、二日間の集中講義をしていただきました。

ここでは、惑星科学会と神戸大学惑星科学研究センター／G-COEプログラム「惑星科学国際教育研究拠点の構築」から参加費補助を受け、セミナーに参加させていただいた私たちから、講義の内容やセミナー中の雰囲気などをご報告させていただきます。

まず、講演の具体的な章立ては以下のようなものでした。

1. 形成過程の概観
2. 分子雲の重力収縮：星形成
3. 原始惑星系円盤
4. 固体微粒子の進化
5. 微惑星から惑星へ
6. 惑星系の形成
7. 隕石の起源と惑星系形成

前半の内容は、天文学的観測に始まり、分子雲の重力収縮の理論モデルの解説、そして原始惑星系円盤の理論モデルの解説で、我々のような惑星形成論初心者にもわかりやすく講義していただきました。後半の内



図1：講師の中本先生。

容は、固体微粒子の成長や惑星形成について講義していただきました。特に中本氏が最近注目しているコンドリュールの形成に関わる議論は興味深い内容でした。幅広い内容を講義していただいたため、様々なバックグラウンドをもつ参加者の研究と思わぬ所で接点があったのではと思います。講義全体の雰囲気も常に質問が飛び交うようなセミナーであったため、より多くの内容を学ぶことができました。

講義後は、「樹海温泉はくあ」へ移動し、併設された集会所で夕食をいただきました。初日はホルモンやマトンを使ったバーベキュー、2日目は季節の野菜を使った天ぷら、そして3日目はむかわ町産の豚を使ったとんかつと、どれも美味しい物ばかりでした。また、1人につき半玉のメロンを、今年も提供していただきました。旬ではないとむかわ町の方はおっしゃるものの、相変わらず甘いメロンでした。そして忘れてはならないのが、ししゃもです。今年は炭焼きと天ぷらでいただいたのですが、どちらも食べだしたら止まらな

1. 東京工業大学大学院理工学研究科
2. 東京大学大学院理学系研究科
kurosaki@geo.titech.ac.jp



図2：セミナー中の風景。



図3：集合写真。

いほどの美味しさでした。昨年に引き続き提供していただいた、このメロンとししやもが、フロンティアセミナーの影の魅力になりつつあるのかもしれません。

夕食後は穂別キャンプ場へと戻り、皆で1つのバンガローに集まって、分科会を行いました。自己紹介をしたり歓談をしたりと、普段は接する機会の少ない参加者同士で親睦を深めることができました。ハイライトは最終日に行われた“昆虫食セミナー”です。自己紹介で明らかになった、とある参加者の趣味を発端とするこの講演では、日本の食料自給率や食文化の観点からの問題提起から始まり、昆虫食の実際や魅力について紹介がなされました。この“セミナー”中は質疑・議論も充実し、昼間のセミナーに引けをとらない充実した時間を過ごすことができました。

本年度フロンティアセミナーの宿泊にはバンガローを利用しました。バンガローには、ベッドが4つ用意されており、トイレや洗面所は外にある共同の施設を使用しました。エアコンはついていないものの、北海道の涼しい気候もあり、日中は快適に過ごすことができました。早朝の戸外は、とても寒く、ベッドの布団だけでは心許ないように思いもしましたが、部屋の中に空気がこもりやすいためか暖かく、風邪を引くこともなく過ごせた。1つのバンガローに対して4人ずつと少人数の班に分かれて宿泊をしたので、他大学の人と交流するよい機会だったのですが、今回のフロンティアセミナーではバンガローにいたのは就寝時のみで、会話するような時間はあまりなく少人数である利点を生かしきれなかったことは残念でした。とはいえ、上記の懇親会やセミナー会場での朝食など交流するには

十分な機会があったので、さほど問題はなかったように思います。

今回充実した3日間を過ごすことができたのは、CPSを始めとする運営の方々のご活躍や、むかわ町の方々のご支援があったからです。そして何より、2日間に渡りわかりやすく興味深い講義をしていただいた中本先生には、深く感謝しております。また、惑星科学会と神戸大学惑星科学研究センター／G-COEプログラム「惑星科学国際教育研究拠点の構築」の参加費援助でこのような貴重な機会をいただけたことに感謝いたします。ありがとうございました。